

# 自然豊かな海で学びを

## 「地域みらい留学」利用し進学

男鹿市の男鹿海洋高校に本年度、都市部に住む中学生が地方の高校に進学する「地域みらい留学」を利用して、首都圏から3人が入学した。卒業までの3年間、男鹿の海をフィールドに漁業や操船などを学ぶ。

**教育 2023**



首都圏から男鹿海洋高へ進学した3人から、吉川さん、金井さん、田邊さん

地域みらい留学は、地方 取り組み。豊かな自然や文の公立高校が都道府県の粹 化、少人数学習を、都会を 超えて生徒を受け入れる。 ではない体験できない学

## 首都圏から 男鹿海洋高に3人



潜水プールで水中ドローンを操縦する生徒ら

びや暮らしの環境を提供する。全国で2018年度に始まり、県内では同校が本年度入学者募集したのが初めて。

入学したのは、吉川豊さん16、塩原出典、金井孝太さん15、東京都出身、田邊虎太郎さん15。

同校3人とも本県に縁はなかったが、海のすぐ近くで水産や海洋について学べることに魅力を感じ、海洋科を受験した。現任校長を

離れ、学生寮やアパートから通っている。

6月20日、同校の潜水プールで1年生向けの授業「水産海洋基礎」があった。水産部長が授業を担当の秋島俊文教師(40)の指導の下、水中で作業に使う小型無人機「水中ドローン」の操縦を体験。生徒は交代でコントローラーを握り、水深10メートルにある観音窓をのぞいたり、水中に設置した輪に機体をくっせたり、ゲーム感覚で学んだ。

同校は少子化が原因で定員割れが続いており、地域みらい留学で県外から生徒を受け入れ、学校を活性化させることを狙っている。地元の海事産業を担う人材育成を後押ししよう、男鹿市も生徒の就職などを補助している。

秋島教師は「3人はラズにようばんでいる。高い志や目標を持って県外から来た生徒がいることで、地元の子たちも刺激を受けているようだ。クラス内が切磋琢磨できる環境になっている」と感じて、「効果を実感している」。

魅力化プラットフォームが推進する。高校3年間の「地域みらい留学」で、高校2年生の1年間の「地域みらい留学」高2留学の2コースがあり、北海道から沖縄まで34道府県の116校(7月11日時点)が参加している。

「地元にも縁はなかったが、海のすぐ近くで水産や海洋について学べることに魅力を感じ、海洋科を受験した。現任校長を離れ、学生寮やアパートから通っている。」

6月20日、同校の潜水プールで1年生向けの授業「水産海洋基礎」があった。水産部長が授業を担当の秋島俊文教師(40)の指導の下、水中で作業に使う小型無人機「水中ドローン」の操縦を体験。生徒は交代でコントローラーを握り、水深10メートルにある観音窓をのぞいたり、水中に設置した輪に機体をくっせたり、ゲーム感覚で学んだ。

漁師の仕事に興味があるという金井さんは「ドローンの操縦は最初、少し難しかったけど、慣れば楽々だった。実際に海で魚を釣ってみたい」と笑顔。マリスボ少部に入り、「部活もきついけどもあるほど、競い合える仲間や優しい先輩がいて楽しんでいる。休日に友達と釣りをするの楽しみの1つ」と話す。

入学から4カ月が過ぎ、田邊さんは「操縦が船に乗って海釣りをしたとき、風や水しぶきが体当たりして気持ち良かった。タンカへの操縦をするのが夢なので、船に関する勉強を頑張りたい」と、市さん「工役好きな海や自然がすくなくばにあつてほしい。将来、水族館で働けるような海のことを広く学びたい」。

同校は少子化が原因で定員割れが続いており、地域みらい留学で県外から生徒を受け入れ、学校を活性化させることを狙っている。地元の海事産業を担う人材育成を後押ししよう、男鹿市も生徒の就職などを補助している。

秋島教師は「3人はラズにようばんでいる。高い志や目標を持って県外から来た生徒がいることで、地元の子たちも刺激を受けているようだ。クラス内が切磋琢磨できる環境になっている」と感じて、「効果を実感している」。

県高校教育課は「県外生が来ることで、その高校に新たな価値が加わり、県内の子もたちが地元にある学校の良さに気付いたり、誇りに思ったりするきっかけにはなりたい」と期待している。(川村) 田邊さん

**地域みらい留学**

「教育」の「こくみん」欄に掲載されている。メール: kyoiku@sakigate.jp